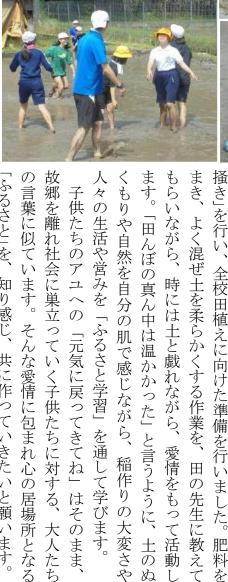


令和6年度 5月15日 NO. 10









旅立っていくアユに子供たちは「元気に

五月の陽光に体を輝かせる稚鮎は、

気持ちよさそうに乙川

す。(「鮎」は中国ではナマズを指し、「鮎」は日本独自の読み 季節を、自分の海と川(ふるさと)の中で生きるアユは、 開き」も行われ、 で一生を終えるアユの人生はドラマチックです。それぞれ に年魚と名づくなり」と知られるよう、「年魚」と呼ばれ一 戻ってきてね」と声をかけて、送り出します。男川では「やな です。)平安時代から「春生じ、夏長じ、秋衰え、冬死す、 アユには「鮎」「香魚」「年魚」「銀口魚」など様々な名前 『古事記』にも名前が出てくる昔からなじみの深 いよいよアユの季節の到来です。 1) があ 故 \mathcal{O} 年

もらいながら、 まき、よく混ぜ土を柔らかくする作業を、 の言葉に似ています。 故郷を離れ社会に巣立っていく子供たちに対する、大人たち 人々の生活や営みを「ふるさと学習」を通して学びます。 くもりや自然を自分の肌で感じながら、稲作りの大変さや ます。「田んぼの真ん中は温かかった」と言うように、土のぬ ふるさと」を、 子供たちのアユへの「元気に戻ってきてね」はそのまま、 時には土と戯れながら、 知り感じ、共に作っていきたいと願います。 そんな愛情に包まれ心の居場所となる 愛情をもって活動 田の先生に教えて

◇学校田◇

今年の田の先生は、鈴木清美さんと畔柳浩司さんです。学校田も、秦梨市民センターと福正寺の 間の田んぼに引っ越しました。全校田植えは、15日に行われました。

月(田植えをする月)に、始まります。十四日には五年生が一

秦梨「ふるさと学習」の大きな柱の一つ「稲作」も、

五月皐

「ふるさと学習」ともつながりがあるように感じます